

## 令和8年度 第1回 学校運営協議会 議事録

日時：令和8年6月4日（木） 10:00～11:30

場所：県立岡山西支援学校 会議室（一部、校長室）

出席者：

- 学校運営協議会委員：岡田会長、東委員、小倉委員、三好委員、小林委員、武縄委員、萩原委員、平井委員、村上委員、江口委員
- 事務局（学校からの参加者）：中園副校長、兼信事務長、小銭高等部教頭、鹿島小学部教頭、頃末主幹教諭、原田主幹教諭、岡崎教諭、横山教諭、三宅進路指導主事、三宅指導教諭、板野指導教諭（のちほど福島生徒指導主事が参加）
- 欠席者：河田委員、澤井委員

### 1. 開会および挨拶

定刻に開会が宣言され、本年度の管理職・教職員および、本年度の委員による自己紹介が名簿順に行われた。事務局より、本日の会議の様子を学校ブログへ掲載するための写真撮影、および議事録作成のための録音について説明があり、出席者全員の了承を得た。

### 2. 会長・副会長の選出

委員の互選により、昨年度に引き続き以下の通り選出され、拍手をもって承認された。

- 会長：岡田 委員
- 副会長：河田 委員

【岡田会長の着任挨拶および概要】 大学での特別支援教育の現状として、コロナ禍に採用試験の受験者が一時ゼロとなるショックを経験したが、現在は徐々に回復し本年度は4名が採用試験に挑んでいる。現代社会において障害のある方と直接関わる機会は依然として少ない。「インクルーシブ」を本当の意味で実現するため、本協議会の活動を通じて、学校を中心とした地域との双方向の関わりや活躍の機会を増やしていきたい。

### 3. 説明および討議（全体会）

江口校長及び各担当者より、本年度の学校経営計画、学校運営協議会の役割、学校評価、いじめ対策について説明が行われた。

#### ① 令和8年度 学校経営計画について（校長）

- 現状：児童生徒 169 名、教職員 115 名でスタート。5月27日には50周年記念式典を温かい雰囲気の中で無事開催。
- 重点推進事項（カラー別の取り組み）：
  - 赤字：軌道に乗ってきた取り組みのさらなる深化・充実。
  - 青字：引き続き大切にしたい事項（「チーム西支援」での楽しさと学びの継続）。
  - 緑字：昨年度の学校評価アンケートから見えてきた課題への対応。

- 自立活動の指導充実：県教委の「新しい教育課題研究事業」2年目として「自活しようぜ」を合言葉に研究を推進し、年度末に成果発表を予定。その他、ICT活用、生涯学習、防災教育にも注力する。
- 働き方改革と環境分析：多様な働き方が常態化する中、複数人指導体制の有効化やタイムマネジメントを推進する。組織としての業務整理を進めるため、協議会側からも持続可能な学校づくりに向けた意見・助言をいただきたい。

## ② 学校運営協議会の役割と法改正について（副校長）

- 法改正（4月1日施行）に伴う対応：学校運営の基本方針の中に「教職員の業務管理および健康確保措置に関する内容」を位置づけることが義務化された。
- 今後の連携：学校、家庭、地域がそれぞれの役割を分担し、業務の見直しや地域人材の活用を協議する。地域の方々には「無理のない範囲で、できることを、できるときに、できる人が」を基本に、環境整備、学習支援、行事支援等で力を貸していただきたい。また、本校のもつ「特別支援教育のセンター校としての機能・人材」も、地域のために存分に活用していただきたい。

## ③ 学校自己評価について（事務局・主幹教諭）

- アンケートの評価方法：昨年度の協議会にて4段階評価と5段階評価の比較を検討。肯定的な回答への偏り（4件法による課題の埋没）を防ぎ、課題を丁寧に把握するため、本年度も引き続き「5段階評価」を採用する（岡田会長からの事前助言を反映）。
- 実施スケジュール：9月中旬に保護者・教職員アンケートを実施し、11月の第2回協議会で結果を報告。評価結果を踏まえて次年度への改善案（学校評価書案）を作成し、2月の第3回協議会での助言を経て最終決定する。

## ④ 本年度のいじめ対策について（生徒指導主事）

- 現状と課題：情緒面での配慮が必要な児童生徒、コミュニケーションが苦手な児童生徒、成功体験の不足から自己肯定感が低い児童生徒の3つの傾向に対する配慮が必要。
- 基本方針：教員の認識を高める日々の情報共有と早期発見。児童生徒が自ら表出できる力を培う。家庭や施設・関係機関との情報交換を密にする。
- 昨年度からの変更点（SNS対策）：児童生徒間のLINE等のトラブル増加に伴い、「情報モラル教育（研修）」の実施を年間計画（7月等）に新規追加。インターネットの正しい使い方についての啓発を保護者・地域とも連携して行う。

## 4. 専門部会における討議および情報交換

「福祉・就労」「教育支援」「安全・防災」の3グループに分かれ分科会を開催した。

## 5. 全体会における情報交換

### ① 福祉就労部会

- 前年度の振り返りと課題：前年度は校内向けの進路研修会を実施したが、「学校外の応援団を増やす」という課題を残した。これを踏まえ、今年度は「企業・事業所向けの見学会」の開催を計画する。

- 今年度の取り組み方針：
  - 進路研修会（8月予定）：保護者のニーズが高い「障害年金」に加え、今年度の希望調査で関心が集まった「グループホーム」に関する講話を継続・追加する。
  - 事業所見学会（10月目途）：中学部の授業や高等部の作業・実習の様子を公開する。対象は企業やA・B型事業所だけでなく、日頃から生徒を支える福祉・計画相談の関係者にも広げ、双方向の相談体制や新たな関係性の構築を目指す。「今年はとりあえずやってみる」を合言葉に推進し、事後アンケートを通じて実習受入れ等の進路開拓にも繋げる。

## ② 教育支援部会

- 公民館講座との連携：前年度から継続検討している公民館講座「育ちを見守る会」へのコーディネーター派遣について協議。少人数で話しやすい会の性質や動き出している日程を考慮し、今年度は来年度に向けた慎重な打合せを進める。また、地域の優れた講座をゲストティーチャーとして招く案は、学校の教育課程（時間枠）との調整に課題がある。
- 夏休みクラブ活動の活用：地域（公民館）が主催する夏休みの自由参加型クラブ活動について共有。授業という枠を離れ、個人として参加する活動は子どもたちにとって貴重な経験となる。公民館から提供されるチラシを基に、保護者が参加しやすいよう校内での効果的な周知方法を検討する。
- 地域への貢献：学校側が受ける支援が多い現状を受け、今後は特別支援教育に関する知見を地域へ還元・貢献できる具体的な方策を計画的に模索していく。

## ③ 安全防災部会

- 防犯・災害訓練計画と助言：4月に実施した不審者対応訓練に関し、委員より「施錠の徹底」や「不審者情報の即時共有」の重要性が指摘された。また、予測が可能な水害（大雨）に対しては、迅速な引き渡しなど事前準備の徹底を図る。
- 被災後の業務継続と地域連携：大規模災害時のBCP（業務継続計画）の視点として、具体的な参集人数の想定や配置、さらに学校・施設・福祉が単体ではなく「力を合わせて助け合う」体制づくりが不可欠であるとの助言を得た。避難訓練時にも地域住民の協力を仰ぎ、双方向の訓練を目指す。
- 防災教育の深化：水位上昇時の対応など、生徒自身が「自分の家や地域の近くで災害が起きたらどう行動するか」を主体的に考え、動く力を培う指導に注力する。また、8月25日開催の公開講座「特別支援における防災教育」で得た知見を生徒へ還元していく。

## 6. 閉会

副校長より、本日出された各専門部会の具体的な意見や地域の課題を、本年度の学校運営および働き方改革の実行に活かしていく旨の総括があり、第1回学校運営協議会を閉会した。